団体インタビュー（アートタウンおゆみ野）

１　日　時　平成２８年２月５日（月）１０：５０～１１：３０
２　場　所　緑区役所１階　地域振興課　会議室
３　対象団体　アートタウンおゆみ野　８名
４　インタビューの結果
（１）地域活動を始めようと思った理由・きっかけは？
・　アートタウンのチラシがきっかけである。趣味で音楽をやっているが、緑区には発表の場がない。人前で発表したいと思う人を支援したかった。おゆみ野文化祭のような機会があればいいと思って足を踏み入れた。
・　夫の転勤で千葉に来た。地域への愛着があったわけではない。しかし、このまちを好きになりたいと思った。そして、声楽家としての経験を活かして皆さん支えることで地域に根差そうと思った。
・　活動する時間があった。また、子育て仲間を作って安心感を持ちたかった。おゆみ野に来たときには何もなかったため、絆づくりとして自治会づくりに携わったり、ＰＴＡの活動などをしていた。初めは地域への愛着という感じではなかったが、ここが子ども達の故郷になると考えたとき、良いまちにしたいと考えが変わった。
（２）活動する上で市に支援してもらいたいことは？
・　あくまでも自分たちのことは自分たちでやるという考えである。やるのは自分達、その上で市には助言者のような存在になってくれると助かる。
・　避難所運営委員会をしているが、自治会の役職が変わった時に情報提供がなく、苦労している。また、連協に所属していない自治会もあると聞いた。避難所の体制構築へ向けて必要な情報は提供して欲しい。
→個人情報保護の観点から開示できないことはご理解いただきたい。連協に所属していない自治会もあることは把握しておきたい。
（３）地域参加しやすくなるには？
・　敷居が低くて、気楽に出入りできればと思う。みんなの広場のようにアミューズメント的な場所があればいい。例えば区役所の空きスペースを芸術活動の発表の場として活用できると良いし、交流の場を通じて行政と市民が同じ目線で自由な意見交換ができると良い。
・　広報を効率的にするためのフォローを行政にしてもらいたい。また、ハコモノの話になるが、施設を作るのは非現実的だが、皆さんが気軽に使えて、経済的な負担がないような形のものができれば良いと思う。
→鎌取コミュニティセンターの稼働率は約５割。利用していただきたい。
・　空き店舗などを利用するといった手段も良いと思う。
（４）活動を継続するための課題とは？

・　色んなイベントをしてみんなで楽しむことが重要。
・　行政の情報発信は限られており、細部の発信になると市民でやる方が良い。行政には、方法やノウハウをサポートしてほしい。
・　市民には、団体などに所属せず、独自に活動している方もいる。行政は把握できないし、一方で活動している方は行政が分かってくれないと感じるミスマッチがある。行政には、そのような方に出会えるプラットフォームの機能を期待したい。
→若葉区役所では、情報のプラットフォームを作った。使える人に広めるのが課題。
・　ワンコインコンサートの様な企画を地域に任せて欲しい。また、団体の会員を増やしたり、呼びかけするところでサポートしてほしい。地域は頑張っているが、このままでは疲弊してしまう。行政もサポートの仕組みやノウハウを考えて欲しい。例えば、まちカフェは地域と行政で連携しながらやっている。
・　地域活性化支援事業の３年間支援を伸ばす考えはないか。資金を得るのは難しい課題。
・　地域活性化支援事業の中で良いものは、市の施策として取り入れていいのではないか。事業の見直しも考える時期ではないか。
・　ジャズフェスティバルは、規模が縮小している。もっと力を入れて欲しいと感じる。財を生まないものをなくすと、千葉市は淋しいまちだと感じる。それから先程、鎌取コミュニティセンターの話が出たが、音楽施設としては不十分。設計時に市民の意見を聞けばよかったと思う。

（５）市民主役のまちづくりにおいて、どんな職員が求められるか。
・　地域に出て、地域の状況を直に見て、情報を手に入れて、それを活かして欲しい。
・　公民館の職員との交流をもっと強くしたい。館長が変わってしまうとコミュニケーションがとれないこともある。一般職員の情報が館長に伝わってないのではないか。職員同士の情報交換も進めてほしい。職員次第のところもある。
・　活動が先細りしている団体もいる。職員には、団体同士の繋がりをプロデュースする発想を持ち、継続性を持ってやって欲しい。

（６）市民主役のまちづくりのための条例について、良い言葉があれば教えて欲しい。
・　退職者の話になるが、今日行く（教育）ところがある、今日用（教養）があるというのを心がけてまちづくりをするのが良い。
・　付き合いやすいまちづくり、気軽に意見が言えて、聞く耳を持つというのが重要。
・　参加しようでは堅苦しいが、「顔だそうよ」というと気が楽。
・　千葉だから「だっぺ言葉」が良い。地域の言葉が入ると親しみがある。
・　商業団体との連携がうまくできれば、より良くなれるのではないか。
・　自分のまちは自分の手で、行政はお手伝いするだけ。